

# 依存からの回復

米国の試み 中

コネティカット州南東部のレバノン・パイン治療所。ポール(43)は、90日の入院治療プログラムに加わっている。今日で50日、酒は一滴も飲んでいない。

庭師をしている。仕事ぶりが認められ、注文も増えた。結婚し、2人の子供にも恵まれた。だが、大きな仕事をもちろりと緊張し、酒の量が増えていった。

治療所は三つ目だ。一つ目も二つ目も、1週間で飲んだくれた。「今度こそ、やり直したい」

ポールはレバノン・パイ

AA

## 輪合う支え語り体験

AA アルコホーリクス・アノニマス(無名のアルコール依存者たち)。匿名で、組織に縛られず体験を語り合う。現在、世界10万グループ2200万人に広がり、基本理念「12のステップ」など回復への道を示すバイブル

「ビッグブック」は、47カ国語に訳されている。51年には米医学界最高のラスカー賞を受賞した。日本では390余りのグループ4千人が活動している(本部J.S.O.03・6599 0・53377)。

同生活の中で、薬物や酒に頼らない生き方を学び、社会復帰をめざす」とビル・サグデン所長が説明する。

「依存が、治療が必要な病気であるということは、まだまだ理解されていない」。コネティカット大学のロナルド・カデン教授(心理学)はいう。

依存の近代的治療は、35年、オハイオ州アクロンでアルコール依存の2人が出会ったことに始まる。ニュ

## 治療体制の限界補う

1 ヨークの株式仲買人ビルとアクロンの医師ボブ。互いの体験を語ることで、依存からの脱出に成功した。

自助グループ「アルコホーリクス・アノニマス(AA)」の誕生だ。

依存から抜け出すには断酒しかない。同じ体験をした者同士が語り合い、問題に気づいていくAAの手法と、認知行動療法などを組み合わせた治療で、それができるのは4〜6割。「だが、治療後も飲まずにいるのは難しい。継続的な教育が重要だ」とコネティカット州ハートフォードの酒薬物回復センター(ADRRC)のロナルド・フレミング治療部長はいう。

2〜4週間。多くの患者は4、5日の短期間で禁断症状などの急性期の治療を終えると、通院に移る。

「平日の昼は管理できて、夜や週末は誘惑が待っている。月曜は不安になるわ」。カウンセラーのデボラ・コバールさんは話す。ほとんどの治療所は助成金や寄付金に頼っているのが現状で、「限られた人しか治療を受けられない。AAなどの自助グループがあれば、治療は成り立たない」とフレミング部長。

「酒をやめて、生まれ変わった」というポールの部屋は整然としていた。コネティカット州レバノンで

ある日、友人に無理やり連れていかれたミーティングでびっくりした。「まるで私と同じ話。苦しいのは自分だけじゃないと分かった」。依存は病気で、意志が弱いからじゃない、だめな人間だからじゃない。「涙が止まらなかった」

「頭のなかで爆弾が破裂したみたいなき分だった」

その最初の一杯から依存だったと思う。大学を卒業して結婚したが、離婚した。その後も何人かの男と付き合ったが、長続きしなかった。

ニューヨークにあるAA本部(GSO)で、ゼネラルマネジャーのグレッグ(57)はいう。「だがどこかで助けを求めたら、必ずそこに救いの手があるようにしたい」。今、150カ国でAAが活動する。

夕方、教会の地下で開かれたミーティングにリック(43)と出かけた。彼は21歳の時、酒をやめた。今も週4回は通っている。

1時間の集まりは、祈りで始まる。約40人の半分は女性だ。互いに愛称で呼び、この1週間酒におぼれなかったことを祝福しあう。1カ月、1年、断酒の節目を迎えた人にコインが配られ、体験を語り合う。

AAの創始者の一人ボブの家は資料館になっている。階段は12段で「12のステップ」を表す。オハイオ州アクロンで

「いつも世界中のどこかでミーティングは開かれている」。リックが言った。